日興リサーチセンター
SMBC日興証券グループ

従事する仕事によってサステナビリティに対する意識は変わるのか
- 生活者アンケートからの考察 -

Research Report
2023 年 10 月

社会システム研究所
主席研究員 杉浦 康之

要　約

日興リサーチセンターでは、生活者向けアンケート調査によって、地球温暖化を含むサステナビリティに対する意識調査を行っている。本稿では、職種による意識の違いの有無を検証するため、サステナビリティに関連した仕事に従事する人（サステナビリティ・ビジネス従事者、以下、SB 従事者）は、サステナビリティに対する関心が相対的に高いのかどうか、簡易的な分析を行った。

分析の結果、本アンケートに回答した SB 従事者は、地球温暖化に対し、企業が行動すべきであると相対的に強く意識する一方、地球温暖化は経済的に良い一面もあると考えていることが確認された。

その他のサステナビリティの課題への回答の特徴として、フェアトレードやマイクロプラスティック、オーガニック食品などに対する関心は相対的に SB 従事者が高くなっているが、エコバックを利用することについては、いずれも 7 割が意識しており、SB 従事者とその他との間に差が確認されなかった。

目次

1. はじめに
2. 地球温暖化とサステナビリティに対する生活者の意識について
  2.1 地球温暖化に関するアンケート調査と結果
  2.2 サステナビリティに関するアンケート調査と結果
  2.3 サステナビリティに関連した仕事に就く回答者の傾向
3. SB 従事者のサステナビリティへの意識
  3.1 SB 従事者の地球温暖化に対する意識
  3.2 SB 従事者のサステナビリティに対する意識
4. おわりに

本資料は、信頼性の高いデータから作成されておりますが、当社はその正確性・確実性に関し、いかなる保証をするものではございません。本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではございません。証券投資に関する最終判断は、投資家ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料の著作権は当社に帰属し、本資料の転用および販売は固く禁じられております。

1．はじめに

日興リサーチセンターでは毎年１回、生活者に対して、消費行動や投資行動の状況に関するアンケート調査を行っている。2019 年からは、地球温暖化をはじめとするサステナビリティに対する意識の変化を確認するためのアンケート項目を追加した。さらに 2021 年からは、投資や貯蓄、ESG 投資に対する意識についての項目、2022 年からは、現在の仕事に対する満足度や転職に関する希望などの項目を追加した。

サステナビリティに対する意識については、杉浦・川久保（2020）、石田・杉浦（2021）、杉浦（2022）で、各年のアンケート調査結果を報告している。過去のアンケート調査の興味深い結果の一つとしては、2021 年の回答結果がそれ以前と比較し気候変動に対する意識が全般的に低下する傾向にあること（杉浦（2022））や、2019 年、2020 年の調査では、一般的に気候変動やサステナビリティに対して意識が高いと言われている Z 世代がその他の世代に比べ意識が低いことなどが確認された（杉浦・川久保（2020）、石田・杉浦（2021））。

これまでのアンケート結果の報告では、世代間の違いや時系列での違いなどに着目してきた。こうしたサステナビリティに対する意識の違いは世代間にとどまらないと考える。例えば、Pew Research Center(2022)は、世界 19 か国（日本含む）で世界中の脅威となる問題についてアンケート調査を行い、国や政治的思想によって脅威となる課題が異なっていることを指摘している。つまり、サステナビリティに対する意識の違いは、世代間だけでなくその背景となる様々なアイデンティティの違いなどがもたらす可能性があることを示唆している。

一般に人は、物事を認知するときに、様々な（心理的な）バイアスが影響することが知られている。特に、サステナビリティについては、利他的な心理だけでなく、経済的なインセンティブ（e.g. 税控除のための寄付）、あるいは社会的な自己肯定感などが影響する（Benabou and Tirole(2010)）。特に自己肯定感という観点では、自らの社会的カテゴリー（性別、地位、仕事）が規範を決め、個人の選好や効用に影響を及ぼす可能性がある（Akerlof and Kranton(2010)）。

本稿では、社会的カテゴリーの一つである、仕事に着目する。すなわち、自分自身が従事する仕事がサステナビリティに関連している場合に、地球温暖化をはじめとするサステナビリティ課題に対しても、意識的であるかを確認する。ただし、もともと環境や社会的問題に興味があることや、あるいは、サステナビリティに関する専門的な知識を持つことが影響し、自らの仕事とサステナビリティへの意識のいずれにも影響を与えている可能性もあるが、本稿では、深くは踏み込まず、簡易的な分析のみによって、サステナビリティに関連した仕事に従事する人（サステナビリティ・ビジネス従事者、SB 従事者）が相対的にサステナビリティへの関心が高いのかを確認することにとどめる。

2．地球温暖化とサステナビリティに対する生活者の意識について

日興リサーチセンターの生活者アンケートは、マクロミル社を通じて、毎年 11 月～12 月ごろにインターネット調査を行っている。その対象は、20 代から 50 代で仕事に従事する約 1,000 名とし、性別

本資料は、信頼性の高いデータから作成されておりますが、当社はその正確性・確実性に関し、いかなる保証をするものではございません。本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではございません。証券投資に関する最終判断は、投資家ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料の著作権は当社に帰属し、本資料の転用および販売は固く禁じられております。

と年代（20 代～50 代の４世代）で等分（約 250 人ずつ）に割り付けている。

アンケートの項目には、地球温暖化に関する内容と生活に関連したサステナビリティに関する内容（2019 年より実施）、投資の実態や ESG 投資に関する項目（2021 年より）、仕事とサステナビリティ課題との関係性（2022 年より実施）が含まれている。

2.1 地球温暖化に関するアンケート調査と結果

地球温暖化に関するアンケートは 2019 年より実施し、2021 年に一部の内容を変更している。図表 1 は、温暖化に関するアンケートの４年間の推移である。本アンケートでは、各項目について「はい」か「いいえ」による回答であり、ここでは「はい」の回答率（以下、賛成率）を示している。2019 年より継続的に行っている項目の特徴として、年々賛成率が低下する傾向がみられる。具体的には「地球温暖化は人類の活動が原因だと思う」は、2019 年、2020 年では 0.518 であったが、2022 年では 0.470 と半数を下回っている。そのほか「ゲリラ豪雨など、近頃の異常気象の原因は地球温暖化だと思う」（0.553 から 0.481）「今後、地球温暖化によって海面上昇や、森林の砂漠化が起こってしまうと考えている」（0.436 から 0.383）「これ以上の地球温暖化を防ぐために、企業は行動するべきだと思う」（0.410 から 0.337）の賛成率も低下傾向にある。賛成率の下段に、2022 年の賛成率との差の検定を行った結果を記載しているが、いずれも、2019 年と 2022 年、2020 年と 2022 年の賛成率に差がみられる。

図表 1　地球温暖化に関するアンケート結果の推移

		2019	2020	2021	2022
地球は温暖化していると思う	賛成率	0.760	0.779	0.759	0.761
	2022年との差	0.001	-0.018	0.002	
地球温暖化は、人類の活動が原因だと思う	賛成率	0.518	0.518	0.504	0.470
	2022年との差	-0.048**	-0.048**	-0.034	
ゲリラ豪雨など、近頃の異常気象の原因は、地球温暖化が原因だと思う	賛成率	0.553	0.533	0.476	0.481
	2022年との差	-0.073***	-0.052**	0.005	
今後、地球温暖化によって海面上昇や、森林の砂漠化が起こってしまうと考えている	賛成率	0.436	0.428	0.422	0.383
	2022年との差	-0.053**	-0.046**	-0.039*	
地球温暖化によって、空調設備が売れたり、新しい作物が取れたりするといった経済に良いこともあると思う	賛成率	0.125	0.109	0.119	0.122
	2022年との差	-0.003	0.014	0.003	
これ以上の地球温暖化を防ぐために、企業は行動するべきだと思う	賛成率	0.410	0.393	0.360	0.337
	2022年との差	-0.073***	-0.056***	-0.023	
これ以上の地球温暖化を防ぐために、化石燃料をやめるべきだと思う	賛成率			0.172	0.150
これ以上の地球温暖化を防ぐために、原子力発電を推進するべきだと思う	賛成率			0.108	0.118
これ以上の地球温暖化を防ぐために、炭素税を導入するべきである	賛成率	0.073	0.093	0.121	0.091
	2022年との差	0.018	-0.002	-0.030**	
昨今のコロナウィルス感染拡大は、気候変動が関係していると思う	賛成率			0.088	0.064

図表内の***は p 値が 1%未満、**は 5%未満、*は 10%未満を表す。
（出所）日興リサーチセンター

本資料は、信頼性の高いデータから作成されておりますが、当社はその正確性・確実性に関し、いかなる保証をするものではございません。本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではございません。証券投資に関する最終判断は、投資家ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料の著作権は当社に帰属し、本資料の転用および販売は固く禁じられております。

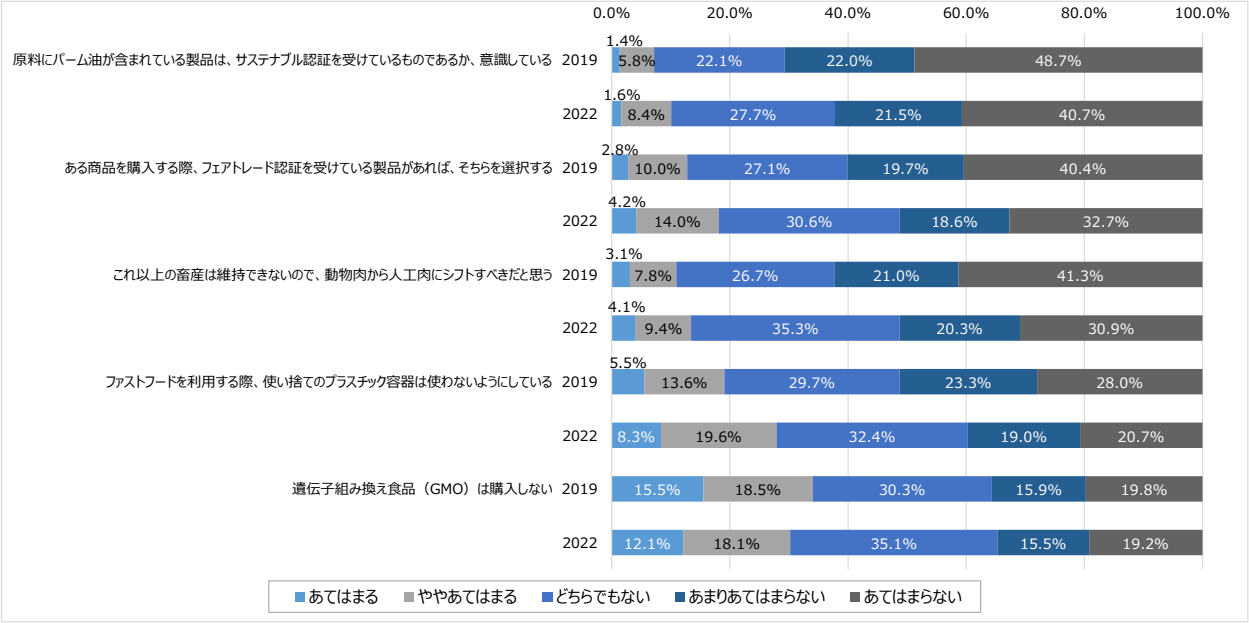
他方で、「これ以上の地球温暖化を防ぐために、炭素税を導入するべきである」については、2021 年の 0.121 から 0.091 と 3 ポイント低下しており、これは統計的に有意な差となっている。

2.2 サステナビリティに関するアンケート調査と結果

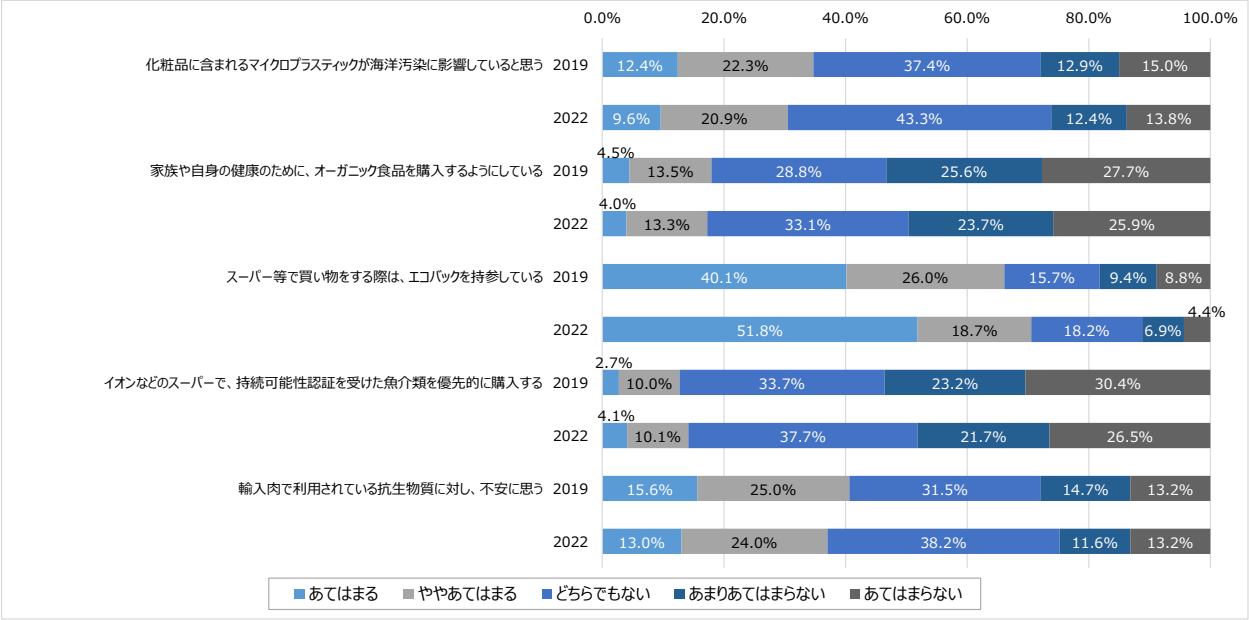
サステナビリティに関するアンケートは、生活者が財・サービスを消費する際に、サステナビリティをどの程度意識するのかを調査の目的としている。各設問では「あてはまる」「ややあてはまる」「どちらでもない」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の 5 つの中から選択するように設計している。なお、本アンケートではサステナビリティの課題として 10 項目を設けている。

図表 2 は、2019 年と 2022 年の分布状況を示している。紙面の都合により、2 期分の結果のみを掲載する。なお、過去 4 年分の詳細と 2022 年の結果を比較したカイ二乗検定の結果については、Appendix A を参照されたい。図表 2 より、「スーパー等で買い物をする際は、エコバックを持参している（以下、エコバック）」に対して、「あてはまる」「ややあてはまる」と回答する率が最も高いことが確認される。ここで、「あてはまる」「ややあてはまる」の回答数の和（賛同数）が「あまりあてはまらない」「あてはまらない」の和（不賛同数）で割った倍率（賛同率）でみると、2019 年では 3.63 であるのに対し、2022 年では 6.28 にまで上昇しており、アンケート回答者の中で、エコバックを持参する傾向が強まっているといえる。

図表 2　サステナビリティに関する調査結果（2019 年、2022 年の結果）



本資料は、信頼性の高いデータから作成されておりますが、当社はその正確性・確実性に関し、いかなる保証をするものではございません。本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではございません。証券投資に関する最終判断は、投資家ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料の著作権は当社に帰属し、本資料の転用および販売は固く禁じられております。



（出所）日興リサーチセンター

さらに、「家族や自身の健康のために、オーガニック食品を購入するようにしている（以下、オーガニック食品）」以外の項目は、分布の傾向に差が見られる。例えば、「原料にパーム油が含まれている製品は、サステナブル承認を受けているものであるか、意識している（以下、パーム油）」について、各選択の回答率をみると、2022 年が 2019 年に比べ、「あてはまる」「ややあてはまる」「どちらでもない」と回答する傾向がある。ただし、「輸入肉で利用されている抗生物質に対し、不安に思う（以下、抗生物質）」の結果については、2019 年、2020 年に比べ「どちらでもない」に回答が偏っている。

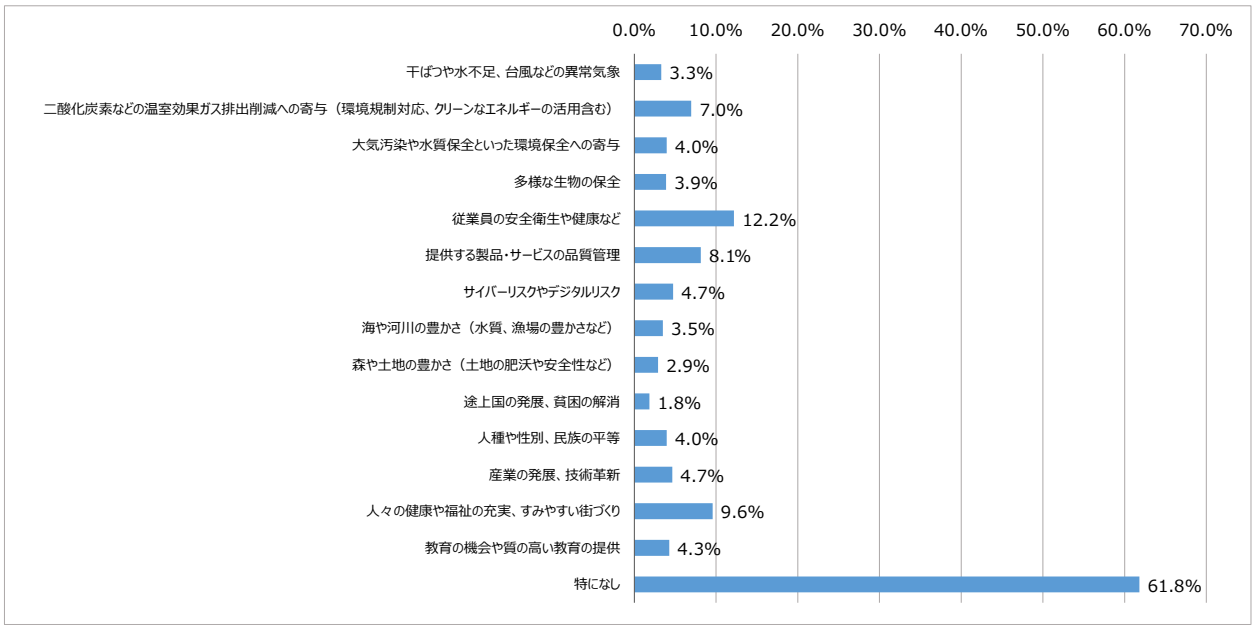
2.3 サステナビリティに関連した仕事に就く回答者の傾向

ここではアンケート回答者が、サステナビリティと自身の仕事がどの程度かかわっているのかを確認する。アンケートでは、主に持続可能な開発目標（SDGs）などを参照し掲げたサステナビリティの課題の中から「ご自身のお仕事や、携わっている事業において関連するもの」を選択するように設計した。図表 3 は「はい」を選択した回答率である。

「特になし」が最も多く（61.8%）、次いで「従業員の安全衛生や健康など」（12.2%）となっている。およそ 4 割程度の回答者が自身の仕事がサステナビリティ課題に関連した仕事に従事している。

本資料は、信頼性の高いデータから作成されておりますが、当社はその正確性・確実性に関し、いかなる保証をするものではございません。本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではございません。証券投資に関する最終判断は、投資家ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料の著作権は当社に帰属し、本資料の転用および販売は固く禁じられております。

図表３　サステナビリティに関連した仕事の割合



（出所）日興リサーチセンター

3. SB 従事者のサステナビリティへの意識

ここでは、自分自身の仕事がサステナビリティに関連している場合に、地球温暖化をはじめとするサステナビリティに対して意識的であるかを確認する。まずは、地球温暖化に対する意識を SB 従事者とそうでない回答者に分けた場合の結果について確認し、次に、サステナビリティ項目ごとに確認する。

3.1 SB 従事者の地球温暖化に対する意識

ここでは、2.3 節のアンケートから、「特になし」以外を少なくとも 1 項目でも選択した回答者を SB 従事者とし、SB 従事者とそうでない回答者（以下、その他）に、地球温暖化に対する回答に差があるのかを確認する。図表４は、それぞれの回答率とその差の検定結果（t 検定）を示している。

図表４からも把握できるように、「地球は温暖化していると思う」について、SB 従事者は 0.792 であるのに対し、その他は 0.741 であり、その差も 0.051 となり、わずかに統計的に有意な結果となっている。また、「地球温暖化は人類の活動が原因だと思う」については、SB 従事者が 0.500、その他が 0.451 となり、有意な差が確認されなかった。

だが、その他の項目についてはいずれも統計的に有意な差が確認される。例えば、「地球温暖化によって、空調設備が売れたり、新しい作物が採れやすくなったりするといった経済的に良いこともあると思う」について、SB 従事者は 0.203 に対し、その他は 0.072 となり、最も大きな差となっている。また「これ以上の地球温暖化を防ぐために、企業は行動するべきだと思う」についても、SB 従事者は 0.406 に対し、その他は 0.295 とその差は 0.111 となっている。このように、地球が温暖化していることや、人類活動が原因であることなどについては、SB 従事者であるか否かに関係なく、共通して認識されて

本資料は、信頼性の高いデータから作成されておりますが、当社はその正確性・確実性に関し、いかなる保証をするものではございません。本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではございません。証券投資に関する最終判断は、投資家ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料の著作権は当社に帰属し、本資料の転用および販売は固く禁じられております。

いるが、その他のことについては、SB 従事者の方が相対的に意識する傾向にある。

図表 4　SB 従事者とその他との地球温暖化に対する意識の差

サンプル数	SB従事者 (394)	その他 (638)	差
地球は温暖化していると思う	0.792	0.741	0.051*
地球温暖化は、人類の活動が原因だと思う	0.500	0.451	0.049
ゲリラ豪雨など、近頃の異常気象の原因は、地球温暖化が原因だと思う	0.528	0.451	0.077**
今後、地球温暖化によって海面上昇や、森林の砂漠化が起こってしまうと考えている	0.432	0.353	0.079**
地球温暖化によって、空調設備が売れたり、新しい作物が取れたりするといった経済に良いこともあると思う	0.203	0.072	0.131***
これ以上の地球温暖化を防ぐために、企業は行動するべきだと思う	0.406	0.295	0.111***
これ以上の地球温暖化を防ぐために、化石燃料をやめるべきだと思う	0.211	0.113	0.098***
これ以上の地球温暖化を防ぐために、原子力発電を推進するべきだと思う	0.155	0.096	0.059***
これ以上の地球温暖化を防ぐために、炭素税を導入するべきである	0.124	0.071	0.054***
昨今のコロナウィルス感染拡大は、気候変動が関係していると思う	0.086	0.050	0.036**

図表内の***は p 値が 1%未満、**は 5%未満、*は 10%未満を表す。
（出所）日興リサーチセンター

3.2 SB 従事者のサステナビリティに対する意識

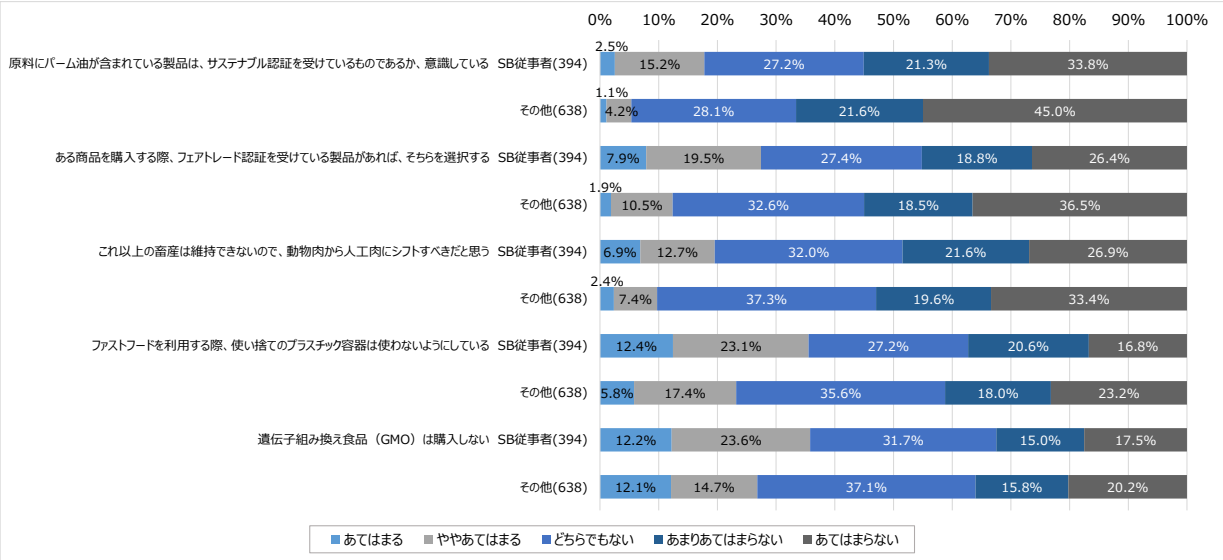
次に、SB 従事者とその他との間でのサステナビリティに対する意識についての回答結果の違いを確認する。図表 5 は、SB 従事者とその他の各設問の回答の比率を示している。また Appendix B では、SB 従事者とその他とのカイ 2 乗検定の結果を付している。

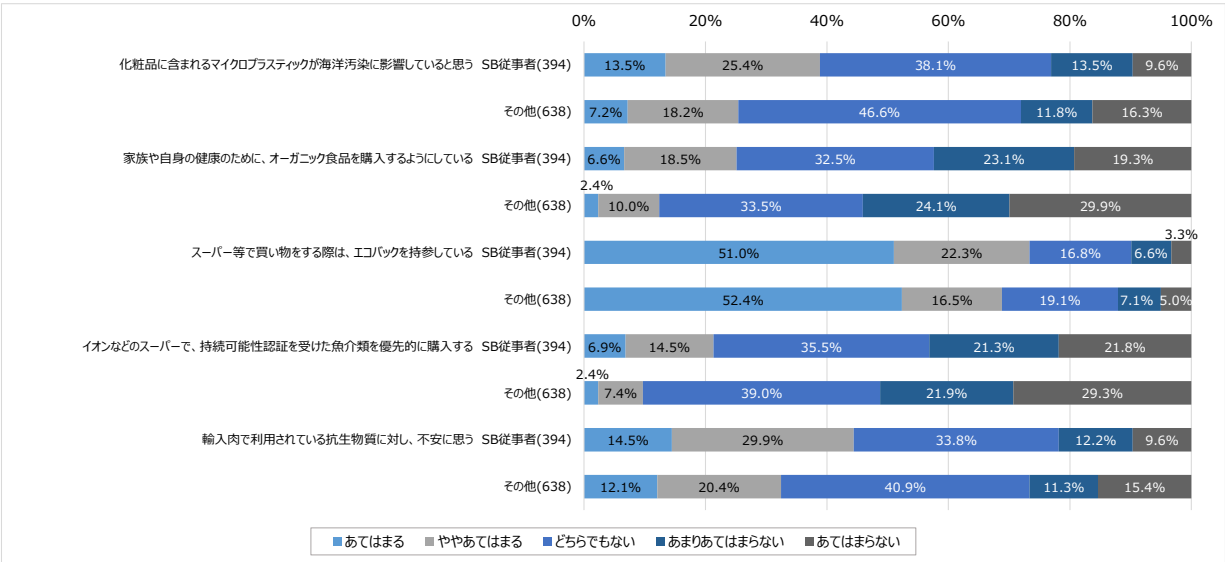
いずれの項目でも SB 従事者がその他に比べ「あてはまる」「ややあてはまる」への回答が多いことが窺える。例えば、パーム油の設問では、SB 従事者は全体 17.8%が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答しているのに対し、その他は 5.3%にとどまる。特に、フェアトレード（「ある商品を購入する際、フェアトレード認証を受けている製品があれば、そちらを選択する」）やマイクロプラスティック（「化粧品に含まれるマイクロプラスティックが海洋汚染に影響していると思う」）、オーガニック食品（「家族や自身の健康のために、オーガニック食品を購入するようにしている」）などについては、SB 従事者はその他と比べ、意識が高いことが窺える。ただし、「エコバック」についてはいずれも 7 割を超えており、カイ 2 乗検定でも有意な差は確認されなかった。

以上の結果から、SB 従事者は、相対的にサステナビリティに対する意識が高いことがわかる。

本資料は、信頼性の高いデータから作成されておりますが、当社はその正確性・確実性に関し、いかなる保証をするものではございません。本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではございません。証券投資に関する最終判断は、投資家ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料の著作権は当社に帰属し、本資料の転用および販売は固く禁じられております。

図表５　SB 従事者とその他とのサステナビリティに対する意識の差





（出所）日興リサーチセンター

4．おわりに

今回の分析からは、SB 従事者がその他に比べ、地球温暖化を含むサステナビリティの課題に意識が高いことが確認された。こうした結果は、回答者自身が従事する仕事やその専門的な知識などが、よりサステナビリティへの関心を高めているといえるだろう。

一方で、エコバックの利用といった経済的なインセンティブの強い問題や、地球温暖化が人類の活動による影響であるといった、一般的に認知されている問題については、SB 従事者であるかどうかによらない結果も得られている。いずれの分析とも、さらなる頑健性を高めるための工夫は必要であるが、本結果からは、仕事を通じたサステナビリティ意識が高まるような取組みや経済的なインセンティブを働かせることが、生活者のサステナビリティへの意識の変化に寄与するものと考える。

本資料は、信頼性の高いデータから作成されておりますが、当社はその正確性・確実性に関し、いかなる保証をするものではございません。本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではございません。証券投資に関する最終判断は、投資家ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料の著作権は当社に帰属し、本資料の転用および販売は固く禁じられております。

【参考文献】

Akerlof. G. & Kranton R.E., (2010). *IDENTITY ECONOMICS: How Our Identities Shape Our Work, Wages, and Well-Being.,* Princeton University Press.（日本語訳：「アイデンティティ経済学」）

Benabou, R., & Tirole, J. (2010). Individual and corporate social responsibility. *Economica*, 77(305), 1–19. https://doi.org/10.1111/j.1468-0335.2009.00843.x

Pew Research Center. (2022). Climate Change Remains Top Global Threat Across 19-Country Survey., https://www.pewresearch.org/global/2022/08/31/climate-change-remains-top-global-threat-across-19-country-survey/

杉浦康之・川久保皓史（2020）「生活者アンケートデータからみた Z 世代やミレニアル世代の持続可能性に対する意識」、日興リサーチレビュー2020 年 6 月号

石田竜大・杉浦康之（2021）「2020 年生活者アンケートデータからみた Z 世代やミレニアル世代の持続可能性に関する意識」、日興リサーチレビュー2021 年 11 月号

杉浦康之（2022）「気候変動に対する生活者の意識は変化したのか？」、日興リサーチレビュー2022 年 7 月号

本資料は、信頼性の高いデータから作成されておりますが、当社はその正確性・確実性に関し、いかなる保証をするものではございません。本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではございません。証券投資に関する最終判断は、投資家ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料の著作権は当社に帰属し、本資料の転用および販売は固く禁じられております。

Appendix A　サステナビリティへの意識に対するアンケート結果の推移とカイ二乗検定の結果

●原料にパーム油が含まれている製品は、サステナブル認証を受けているものであるか、意識している

year	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	2022年との比較結果	賛同率
2019	14	60	228	227	503	1032	(19.31)***	0.10
	1.36	5.81	22.09	22	48.74	100		
2020	14	68	262	192	496	1032	(12.15)**	0.12
	1.36	6.59	25.39	18.6	48.06	100		
2021	16	74	294	210	438	1032	(1.90)	0.14
	1.55	7.17	28.49	20.35	42.44	100		
2022	17	87	286	222	420	1032		0.16
	1.65	8.43	27.71	21.51	40.7	100		

●ある商品を購入する際、フェアトレード認証を受けている製品があれば、そちらを選択する

year	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	2022年との比較結果	賛同率
2019	29	103	280	203	417	1032	(20.50)***	0.21
	2.81	9.98	27.13	19.67	40.41	100		
2020	37	134	301	170	390	1032	(6.38)	0.31
	3.59	12.98	29.17	16.47	37.79	100		
2021	35	134	335	194	334	1032	(1.76)	0.32
	3.39	12.98	32.46	18.8	32.36	100		
2022	43	144	316	192	337	1032		0.35
	4.17	13.95	30.62	18.6	32.66	100		

●これ以上の畜産は維持できないので、動物肉から人工肉にシフトすべきだと思う

year	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	2022年との比較結果	賛同率
2019	32	81	276	217	426	1032	(30.37)***	0.18
	3.1	7.85	26.74	21.03	41.28	100		
2020	35	92	307	224	374	1032	(10.43)**	0.21
	3.39	8.91	29.75	21.71	36.24	100		
2021	40	118	369	210	295	1032	(3.07)	0.31
	3.88	11.43	35.76	20.35	28.59	100		
2022	42	97	364	210	319	1032		0.26
	4.07	9.4	35.27	20.35	30.91	100		

●ファストフードを利用する際、使い捨てのプラスチック容器は使わないようにしている

year	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	2022年との比較結果	賛同率
2019	57	140	306	240	289	1032	(33.97)***	0.37
	5.52	13.57	29.65	23.26	28	100		
2020	64	167	321	223	257	1032	(12.47)**	0.48
	6.2	16.18	31.1	21.61	24.9	100		
2021	72	169	357	207	227	1032	(5.62)	0.56
	6.98	16.38	34.59	20.06	22	100		
2022	86	202	334	196	214	1032		0.70
	8.33	19.57	32.36	18.99	20.74	100		

●遺伝子組み換え食品（GMO）は購入しない

year	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	2022年との比較結果	賛同率
2019	160	191	313	164	204	1032	(8.04)*	0.95
	15.5	18.51	30.33	15.89	19.77	100		
2020	147	206	305	189	185	1032	(10.42)**	0.94
	14.24	19.96	29.55	18.31	17.93	100		
2021	141	184	339	194	174	1032	(6.56)	0.88
	13.66	17.83	32.85	18.8	16.86	100		
2022	125	187	362	160	198	1032		0.87
	12.11	18.12	35.08	15.5	19.19	100		

本資料は、信頼性の高いデータから作成されておりますが、当社はその正確性・確実性に関し、いかなる保証をするものではございません。本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではございません。証券投資に関する最終判断は、投資家ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料の著作権は当社に帰属し、本資料の転用および販売は固く禁じられております。

●化粧品に含まれるマイクロプラスティックが海洋汚染に影響していると思う

year	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	2022年との比較結果	賛同率
2019	128	230	386	133	155	1032	(9.28)*	1.24
	12.4	22.29	37.4	12.89	15.02	100		
2020	119	247	412	111	143	1032	(6.55)	1.44
	11.53	23.93	39.92	10.76	13.86	100		
2021	96	236	425	144	131	1032	(2.87)	1.21
	9.3	22.87	41.18	13.95	12.69	100		
2022	99	216	447	128	142	1032		1.17
	9.59	20.93	43.31	12.4	13.76	100		

●家族や自身の健康のために、オーガニック食品を購入するようにしている

year	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	2022年との比較結果	賛同率
2019	46	139	297	264	286	1032	(4.83)	0.34
	4.46	13.47	28.78	25.58	27.71	100		
2020	42	144	334	229	283	1032	(1.29)	0.36
	4.07	13.95	32.36	22.19	27.42	100		
2021	46	151	332	252	251	1032	(1.71)	0.39
	4.46	14.63	32.17	24.42	24.32	100		
2022	41	137	342	245	267	1032		0.35
	3.97	13.28	33.14	23.74	25.87	100		

●スーパー等で買い物をする際は、エコバックを持参している

year	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	2022年との比較結果	賛同率
2019	414	268	162	97	91	1032	(49.14)***	3.63
	40.12	25.97	15.7	9.4	8.82	100		
2020	583	206	141	59	43	1032	(10.35)**	7.74
	56.49	19.96	13.66	5.72	4.17	100		
2021	529	203	180	72	48	1032	(0.56)	6.10
	51.26	19.67	17.44	6.98	4.65	100		
2022	535	193	188	71	45	1032		6.28
	51.84	18.7	18.22	6.88	4.36	100		

●イオンなどのスーパーで、持続可能性認証を受けた魚介類を優先的に購入する

year	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	2022年との比較結果	賛同率
2019	28	103	348	239	314	1032	(8.44)*	0.24
	2.71	9.98	33.72	23.16	30.43	100		
2020	34	90	403	232	273	1032	(2.24)	0.25
	3.29	8.72	39.05	22.48	26.45	100		
2021	47	113	375	230	267	1032	(1.06)	0.32
	4.55	10.95	36.34	22.29	25.87	100		
2022	42	104	389	224	273	1032		0.29
	4.07	10.08	37.69	21.71	26.45	100		

●輸入肉で利用されている抗生物質に対し、不安に思う

year	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	2022年との比較結果	賛同率
2019	161	258	325	152	136	1032	(13.06)**	1.45
	15.6	25	31.49	14.73	13.18	100		
2020	176	284	337	113	122	1032	(13.54)***	1.96
	17.05	27.52	32.66	10.95	11.82	100		
2021	144	262	371	130	125	1032	(2.30)	1.59
	13.95	25.39	35.95	12.6	12.11	100		
2022	134	248	394	120	136	1032		1.49
	12.98	24.03	38.18	11.63	13.18	100		

図表内の***はｐ値が 1%未満、**は 5%未満、*は 10%未満を表す。
上段は人、下段は%。
（出所）日興リサーチセンター

本資料は、信頼性の高いデータから作成されておりますが、当社はその正確性・確実性に関し、いかなる保証をするものではございません。本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではございません。証券投資に関する最終判断は、投資家ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料の著作権は当社に帰属し、本資料の転用および販売は固く禁じられております。

Appendix B　SB 従事者とその他の回答結果とカイ 2 乗検定の結果

●原料にパーム油が含まれている製品は、サステナブル認証を受けているものであるか、意識している	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	比較結果（カイ2乗）
SB従事者	10	60	107	84	133	394	
	2.54	15.23	27.16	21.32	33.76	100	
その他	7	27	179	138	287	638	(45.64)***
	1.1	4.23	28.06	21.63	44.98	100	

●ある商品を購入する際、フェアトレード認証を受けている製品があれば、そちらを選択する	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	比較結果（カイ2乗）
SB従事者	31	77	108	74	104	394	
	7.87	19.54	27.41	18.78	26.4	100	
その他	12	67	208	118	233	638	(45.03)***
	1.88	10.5	32.6	18.5	36.52	100	

●これ以上の畜産は維持できないので、動物肉から人工肉にシフトすべきだと思う	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	比較結果（カイ2乗）
SB従事者	27	50	126	85	106	394	
	6.85	12.69	31.98	21.57	26.9	100	
その他	15	47	238	125	213	638	(25.21)***
	2.35	7.37	37.3	19.59	33.39	100	

●ファストフードを利用する際、使い捨てのプラスチック容器は使わないようにしている	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	比較結果（カイ2乗）
SB従事者	49	91	107	81	66	394	
	12.44	23.1	27.16	20.56	16.75	100	
その他	37	111	227	115	148	638	(27.96)***
	5.8	17.4	35.58	18.03	23.2	100	

●遺伝子組み換え食品（GMO）は購入しない	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	比較結果（カイ2乗）
SB従事者	48	93	125	59	69	394	
	12.18	23.6	31.73	14.97	17.51	100	
その他	77	94	237	101	129	638	(13.67)***
	12.07	14.73	37.15	15.83	20.22	100	

●化粧品に含まれるマイクロプラスティックが海洋汚染に影響していると思う	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	比較結果（カイ2乗）
SB従事者	53	100	150	53	38	394	
	13.45	25.38	38.07	13.45	9.64	100	
その他	46	116	297	75	104	638	(28.38)***
	7.21	18.18	46.55	11.76	16.3	100	

●家族や自身の健康のために、オーガニック食品を購入するようにしている	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	比較結果（カイ2乗）
SB従事者	26	73	128	91	76	394	
	6.6	18.53	32.49	23.1	19.29	100	
その他	15	64	214	154	191	638	(35.18)***
	2.35	10.03	33.54	24.14	29.94	100	

本資料は、信頼性の高いデータから作成されておりますが、当社はその正確性・確実性に関し、いかなる保証をするものではございません。本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではございません。証券投資に関する最終判断は、投資家ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料の著作権は当社に帰属し、本資料の転用および販売は固く禁じられております。

●スーパー等で買い物をする際は、エコバックを持参している	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	比較結果（カイ2乗）
SB従事者	201	88	66	26	13	394	
	51.02	22.34	16.75	6.6	3.3	100	
その他	334	105	122	45	32	638	(7.05)
	52.35	16.46	19.12	7.05	5.02	100	

●イオンなどのスーパーで、持続可能性認証を受けた魚介類を優先的に購入する	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	比較結果（カイ2乗）
SB従事者	27	57	140	84	86	394	
	6.85	14.47	35.53	21.32	21.83	100	
その他	15	47	249	140	187	638	(30.30)***
	2.35	7.37	39.03	21.94	29.31	100	

●輸入肉で利用されている抗生物質に対し、不安に思う	あてはまる	ややあてはまる	どちらでもない	あまりあてはまらない	あてはまらない	Total	比較結果（カイ2乗）
SB従事者	57	118	133	48	38	394	
	14.47	29.95	33.76	12.18	9.64	100	
その他	77	130	261	72	98	638	(19.84)***
	12.07	20.38	40.91	11.29	15.36	100	

図表内の***は p 値が 1%未満、**は 5%未満、*は 10%未満を表す。
上段は人、下段は%。
（出所）日興リサーチセンター

（END）

本資料は、信頼性の高いデータから作成されておりますが、当社はその正確性・確実性に関し、いかなる保証をするものではございません。本資料は、情報提供を目的としており、投資勧誘を目的としたものではございません。証券投資に関する最終判断は、投資家ご自身の判断でなさるようにお願いいたします。本資料の著作権は当社に帰属し、本資料の転用および販売は固く禁じられております。